

耕平さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org



皆さん、こんにちは。節分も過ぎ、春が待ち遠しい季節になりましたが、まだまだ寒い日が続きます。くれぐれもご自愛ください。

今年のかかわら版は、日常会話の中に浸透している仏教用語についてお伝えしています。

いろいろ不満が出てくるのは、欲のなせる業(わざ)。何かと不安になるのも、欲のなせる業。「あれが欲しい」「これが欲しい」と思う心が「あれがない」「これがない」「あれを失うかもしれない」「これを失うかもしれない」という不満や不安の気持ちを生み出します。

何ごとも我慢、我慢。でも、我慢と傲慢は紙一重。先月のかかわら版で我慢は「自我の慢心」を表す仏教用語、「我慢と傲慢は親戚です」とお伝えしたところ、なかなかの好評をいただきました。と、親戚シリーズ第二弾。

いろいろ不満があると、口から出てくるのは「愚痴(ぐち)」。実はこの「愚

痴」も仏教用語です。「まったくもう、どうしてこうなんだ」「うちの亭主は」「うちのカミさんは」「そもそも社会は」と際限なく出てくる「愚痴」。日頃からお付き合いの深い親友です(笑)。

自分の思い通りにならないこと、自分が我慢していることに対する不満として出てくるのが「愚痴」。仏教のサンスクリット語原典では「モーハ」と言い、「無知」を意味します。

思い通りにならないのは人のせい、我慢しているのも人のせい、でも「それは違いますよ」「不平不満が出てくるのは自分の無知のせいですよ」と教えてくれるのが仏教です。

そもそも漢字を見たら気がつきません。「愚痴」は「愚かな智慧(知恵)」と書きますので、愚かな考え、愚かな知恵が口から出て、それを他人に聞かせていると思うと、何と恥ずかしい。結果が自分の思い通りにならないので、口から

出てくる「愚痴」。子どもの駄々(ダダ)と似ています。

子どもに対して「何でも自分の思う通りにはならないのよ」と諭している大人の口から出てくる「愚痴」。

何かにこだわることなく、広く穏やかな心で人や出来事や社会を見つめ、思い通りにならない結果とも向き合い、ありのまま受け入れること。

そういう心の持ちようになると「愚痴」も「無知」も縁遠くなります。戒め、少しでも平穏で争いごとの少ない社会にする。そのためには、一人ひとりが「愚痴」の本質に気づくことが肝要です。難しいです。でも心に留めておきましょう。

「愚痴」を言っても、何かが変わるわけではありませんが。「愚痴」を言う時間とエネルギーは別の方向に向けるべきでしょう。「かわら版」、今年もよろしくお願ひ致します。

耕平

かわら版執筆者 大塚耕平

日泰寺の地元、田代小学校、城山中学校を卒業。旭丘高校、早稲田大学をへて、日本銀行に18年間勤務。

2001年から参議院議員。元内閣府副大臣・厚生労働副大臣。地元の歴史・文化遺産の継承と振興のために「弘法さんかわら版」を執筆しています。今年で、足かけ16年目。

日銀時代に母校の大学院博士課程を修了(学術博士)。現在は、早稲田大学、中央大学大学院、藤田保健衛生大学医学部の客員教授も務めています。

好評発売中

